

「阪神・淡路」で被災、再婚、闘病…

震災20年機に半生つづる

かつて暮らした神戸の日々などをつづったエッセー集「今日もまわり道」を、東京在住の主婦井堀のり子さん(65)が自費出版した。阪神・淡路大震災を機に新たな家族ができたこと、義理の息子たちとの関係に悩んだこと、がんとの闘病生活…。震災20年に合わせ、山あり谷ありの人生を一冊にまとめた。

(山本哲志)

東京の井堀さんがエッセー集

秋田県出身の井堀さんが、震災で閉店を余儀な

は1988年、東京からくされた。

神戸に移住した。妹と三「あの朝、住んでいた宮で飲食店を営んでいたマンション前のすし店が

初のエッセー集を手に、「これからも書き続けたい」と話す井堀のり子さん＝東京・銀座、神戸新聞東京支社



全51編 前向きな日常、軽妙に

崩れていくのが窓から見えた」。助けに来てくれたのは、元交際相手だった。その男性が住む神戸市西区の家に転がり込み、2カ月後に結婚した。

互いに再婚で、前妻をがんで亡くしていた夫の子どもは高校生と中学生。「どう接すればいいのか悩んだ」という。当時の葛藤をぶつけた初のエッセーが読者投稿欄「神戸新聞文芸」に入選。

2004年に結腸がん治療のため東京に移り住んでからも、作文教室に通いながら書きためた。

エッセー集に収めた51編には、豊富な人生経験や最近の日常が軽妙な筆致でつづられ、前向きで積極的な性格が伝わってくる。本紙文芸欄入選作も収録。井堀さんは「たくさんの思い出が詰まった神戸は、今でも大切な街」と話す。

文庫判176頁。520円(税別)。百年書房
☎03・6666・9594